



ATTAC

でも やわらかく

代表:

平川秀幸

連絡先:

小森政孝 (ATTAC 京都事務局)

TEL/FAX 075-706-3875

E-MAIL attac_kyoto@yahoo.co.jpHomepage http://k_attac.tripod.com/

第4号 ● 2003.1.31 (金)

ジョゼ・ボベ♥かく語りき



2002年10月29日朝、キャンパスプラザ京都で行われたジョゼ・ボベ・トークライブ in KYOTO は約280名の方にご参加いただき、大成功のうちに終了いたしました。以下はボベさんの講演要旨をまとめたものです。

なお、ボベさんを京都に迎えるにあたってジョゼ・ボベ・トークライブ実行委員会では、委員会に参加した京都精華大学の学生さんたちの手で、「ボベさんに聞きたいこと」をアンケート調査しました。これをもとに実行委員会で、質問表を用意し、講演会の前夜にボベさんに手渡し、これに答えるかたちでの講演をお願いしました。その中でとくに重要な論点は、以下の二つです。

ボベ氏にとってマクドナルド解体というデモンストレーションは「非暴力直接行動」であるようだが、日本の感覚では、やはりそれは(たとえ軽微なものでも)暴力性のある違法な行為と見えてしまう。フランスの政治文化では、「合法的行為」と「(単に)違法な行為」とのあいだに「違法だが正当な行為(illegal but legitimate actions)」というものが受け入れられる余地があるのかどうか、説明をして欲しい。

一般に日本では、とくに若い人々のあいだで社会運動に懐疑的な見方が広まっている。しかし、その一方で若い人々は、世界のために何か自分ができることを探しており、自分にも何かができる力があることを信じたいとも思っているようである。そんな彼/彼女らに勇気を与えるようなメッセージをお願いしたい。

【ボベさん講演要旨】

「悪い法律なら市民の力で変えなければならない。それが長年の活動の中で学んだことだ。」

——マクドナルド解体への道

私が活動を始めたのは、16、17歳の頃だ。最初の闘いは日本のヒロシマ、ナガサキと関係している。フランス軍の核兵器に対する反対運動だった。その後、ラルザックでの軍事基地建設阻止の闘争に参加した。1971年、この闘いに勝利したことは、私にとって素晴らしい経験だった。

非暴力の農民の運動がフランス軍に勝った。それは、どんな軍隊よりも強かったのだ。

その後、我々は農民連盟を組織して、土地を守るだけでなく、農業のやり方、工業的やり方に反対して闘ってきた。

転機が訪れたのは、86年だ。GATTに農業が取り込まれたことで、事態は新しい段階に入った。我々はゾっとするような発見をした。そこでは、農業産品が工業製品と同じように扱われることになっていたのだ。農業は人々を

食べさせるためにあるのであって、自由貿易のためにあるのではない。世界貿易機関(WTO)と自由貿易体制の危険性は、それが何百万人の生活を変えてしまうことだ。

多国籍企業のねらいは何か。それは、人々が選択できないようにすることだ。人々に欲しくもない食べ物を押し付けることだ。

EUは米国産ホルモン牛肉の輸入を規制したが、アメリカはWTOにこの問題を持ち込み、1999年に結果が出た。それはEUはホルモン牛肉を拒絶してはいけないというものであり、損害賠償として60品目に100%関税をかけるというものだった。そこには我々のロックフォール・チーズも含まれていた。だが、相手がWTOである以上、それを持ち込めるような裁判所は存在しなかった。反対運動のなかで分ったのは、法律を用いて抗議することが不可能だということだった。そこで我々はデモを行い、マクドナルド店舗を解体することに決めた。これは老人や子供も参加する極めて平和的な行動だった。だが数日後には私は牢屋に入ることになった。

この行動ははじまりだった。人々はWTOの問題が何であるかを理解し始めた。WTOが食べ物を支配していることを理解し始めたのだ。

■「GMOを欲しがっているのは誰か。農民でもなければ、消費者でもない。WTOだけが「GMOを拒否してはいけない」と言っている。欲しがっているのは巨大な多国籍企業だけだ。」——
遺伝子組換え作物との闘い

かつてホルモン牛肉をめぐる起こったことが今、GMOという形でおきている。多国籍企業のただ一つの目的は、彼らの種子を全世界の農民に買わせることだ。特許法のもとでは、農民が自分でGMOの種子を、収穫の一部から取って勝手に使うと法廷に連れて行かれ裁かれる。そういうシステムになっているのだ。

GMOにはもちろん健康の問題もあるが、一番重要な問題は、企業による農業の支配の問題だ。多国籍企業はGMOによってすべての種を支配しようとしているのだ。

4年後の今、闘いは大きく前進している。EUでは人口の80%がGMOを拒絶している。農民もGMOを売のを拒否している。EUでは1999年以降、モラトリアムが設けられた。これはうれしいことにモンサント社に打撃を与えた。

■「我々の闘いは法律に触れるものであっても正しい。人々もそれを理解している。」

欧州人権憲章は人々の健康を脅かす場合に抵抗する権利を明記している。ただ、人々の良識が変わっても、法律は旧態依然としており、我々はしばしば有罪という判決を受けることになる。それが11月5日に14ヶ月収監の判決が下されようとしている理由だ。

違法行為であることは大した問題ではない。正当なことをしているからだ。より良い世界に住むためには法律にふれることも止むを得ない場合がある。我々は良心が命ずるなら、すべての人が賛成することを待つ必要はないのだ。

農業を守るための闘いは、自由貿易との闘いであり、人権を守るための闘いである。

【会場からの質問に答えて】

我々は政治政党ではない。我々が目指すのは新しい市民社会を創りだすことだ。これは新しい社会を創るための実験なのだ。今や既存の政党はものごとを変える力を持たない。

私は働く場所と住む場所を一緒にしたかった。大学にも行ったがすぐに退学した。私の農民としての喜びは、自由であること、そして人々が私の作ったチーズを喜んでくれることだ。私は金のために農業を選んだのではな

い。カネは人生のなかで一番大事なものではない。

運動が負けるというのは、何もしないときだけである。あらゆることが可能なのだ。だから我々フランス人はATTACを作った。ATTACは民衆教育運動(popular education)だ。人々が自ら学び、伝え合っていく。そこでは、あなた方、学生の果たせる役割は大きい。また、さまざまな具体的闘争に参加することができる。消費者組合に参加したり、ホームレスの人々を助けるための活動に参加することもできる。それぞれの取り組みは小さくても、それを合わせれば大きな力を持ち、大きなことを成し遂げられる。政治をも動かすことができるのだ。

GMOは飢餓との闘いでは意味を持たない。重要なのは、人々が自分の土地で自分の食糧を作れるようにすることなのだ。飢餓問題の根源は、米国やEUがダンピング的な安い「国際価格」の作物を途上国に売りつけ、その地元の農業を滅ぼしてしまうことにある。ダンピングを用いて貧しい国々の農業の体系を破壊したのだ。[注：ボベ氏や農民連盟、世界的な農民ネットワークのピア・カンパシーナは、人々が自分の土地で作りたいものを自由に作り食べる権利を「食糧主権」と呼んでいる。]

実際には、食糧援助はGMOを押し付ける武器となっている。食糧援助が一番望んでいるのは、多国籍企業だ。事実、アフリカの17カ国は、生物特許に対して闘うことを決定した。

あり得ないことだが、もしもモンサント社の会長と一日過ごすことができるとしたら、私は彼を農場に連れて行くだろう。特に南側の農場に。そこで人々がどのように暮らしているかを見れば、彼の会社の殺虫剤やGMOが人々にとって何の意味もないことがわかるだろう。

巨大メディアは反グローバリゼーションといえ、暴力ばかり誇張して報道する。だが、現実には非暴力という運動側の方針は変わっていない。暴力沙汰というのはごく一部に過ぎない。変わったのはメディアの方だ。メディアはグローバリゼーションのために動いている。

去年の9月13日付のウォールストリート・ジャーナルの社説は、マクドナルドを解体した私が、ワールド・トレードセンターを破壊したオサマ・ビンラディンと同じだと書いている。

メディアは暴力を望んでおり、暴力がなければ報道しない。今年、バルセロナで40万以上の人々が集まった行動があったが、全く報道されなかった。

日本でもさまざまな目標を持ったさまざまな運動が存在する。いまやそれを一つに束ね、共通の目標を設定するときだ。それがまさにフランスでATTACが創られた理由なのだ。

スローフードって？

よく耳にするようになったとはいえ、どうやらまだまだこの言葉の意味は浸透しきってないみたい。私が「スローフード運動をしています」と言うと、「スローフードって何？」「ゆっくり時間をかけて食べること？」「自然派レストランに食べに行くこと？」などという反応がかえってきます。

もっと言葉の持つ内容を広めないでスローフードが言葉だけ一人歩きになってしまい、一時期のブームで終わってしまっは大変！

ということで、スローフード運動発祥の地イタリアで1986年に生まれた「スローフード宣言」なるものをお届けします。

「スローフード宣言」(略)

我々の世紀は、工業文明の下に発達し、スピードに束縛され、「ファーストフード」を食することを強いる「ファーストライフ」という共通のウイルスに感染している。

この滅亡の危機へ突き進もうとするスピードから、

自らを解放しなければならない。

我々の穏やかな喜びを守るための唯一の道は、このファーストライフという全世界的狂気に立ち向かうことです。この狂乱を効率と履き違えるやからに対し、私たちは感性の喜びと、ゆっくりといつまでも持続する楽しみを保証する適量のワクチンを推奨する。

反撃は「スローフードな食卓」から是非、郷土料理の風味と豊かさを再発見し、かつファーストフードの没個性化を無効にしよう...

(島村菜津 = 訳)

ウイルスに感染している日本人

競争主義と長時間労働で過労死という単語をも生み出した日本型資本主義はまさにウイルス。食べる時間、寝る時間、遊ぶ時間を削ってまで働かされている私たちの生活はファーストライフの優等生。

近年、不況とデフレの悪循環の渦に巻き込まれ、滅亡の危機へと加速している。おまけに失業率は過去最高記録を何度も塗り替え、ハローワークは朝から晩まで老若男女であふれかえっているという、狂乱ぶり。

今こそ食×職を見直す時ではないでしょうか？

ホットコラム 冬の省エネ

山沖 直樹 (かたっく編集員)

寒い！とにかく寒い！ 想像はつくだろうけれど、毎日のように雪がちらつくなんてのは、南国土佐では考えられない。京都に出てきてはや三年、冬ってほんとに寒かったんだなぁとつくづく実感。こんなに寒かったら、みんな暖房とかガンガンかけたくなるんだろうけれども、それはちょっと待ってほしい。

最近の家庭機器はどれもこれもみんな省エネ志向。聞くところによると、20年前の同じものに比べて、電力消費量はなんと三分の一程度。でも、だから大丈夫ってわけじゃない。僕たちの使う電力自体はむしろどんどん増えてきてる。安くなった分使われる台数もずいぶん増えたし、なにより四六時中つけっぱなしってひとが結構いるからだ。これでは全く逆効果。本気で省エネするなら、やっぱり使い方から変えなきゃならない。

例えばエアコン。フィルターをこまめに掃除しないでほうっておくと、だいたい2週間で5%くらい風力がダウンするとのこと。設定温度も、2上げるたびに電力は10%増。羽の角度だって下向きと上向きでは全然違う。

ホットカーペットだって床との間に新聞紙を敷いておくだけでずいぶん暖かくなるし、コタツにしても布団の厚さを倍にするだけで、エネルギー効率アップは2割増。これは結構大きい。

それでも寒いというなら、帽子、肩掛け、ひざ掛け、靴下...。別に電気を使わなくても、暖かくする方法はいくらでもある。

ほんのちょっとした工夫で、エネルギー節約。ついでに電気代も節約。冬の省エネ、みんなも考えてみませんか？



冬はロコツに経済力の差が出るのよね～。でもかしこく、京の冬を乗りきりましょ。

襟首と手首足首をガードするとイイらしいわよ、動脈が皮膚に近い部分ね。マフラーと、穴あきソックスを切ったヤツでOKね。自転車に乗るときは、お腹に新聞紙が基本ね。そんでユニクロに頼る前に、古着屋やフリーマーケットを見てもよ。 (・Attac犬ハンナさんのコメント)

真麻のでたとこ旅日記

タイ編 強いものに身を任せ?

2002年11月

今回のタイ取材のキーワードは、やっぱり「水」かも知れない。ときおり心の準備もなくあふれる涙も水だし、関心を寄せている問題のひとつも Bangkok の飲料水事情とタイの水の祭り。そして、今日、午前中の取材相手の方から紹介して頂いてお話を聞いてきた本格ハンバーグとカレーの店の名前がなんと「みずキッチン」ときた。Bangkok 有数の歓楽街パッポンの、街ができた頃からある洋食屋だ。店名は現在のオーナー鍼(まさかり)昭康(68歳)さんがこの店で働きはじめたときのオーナーの名前、水谷さんから取ったものをそのままずっと使っている。コック修業時代に、新しいホテルの店のオープンのためにタイに仲間とやってきた鍼さんだが、そのホテルの業績が思ったように伸びず、2年の予定が1年で契約打ち切りという事態になったときすでにいくつかのホテルを「転戦」していた水谷さんに一緒に店をやらないかと声をかけられたのだという。わたしは、その話を聞いているだけでも、第二次大戦終戦後日本軍が撤退したあとも、いかにタイに多くの外資が入ってきているかが見て取れた。いまでも Bangkok 市内のいたるところに欧米スタイルの建物

が残っていて、ときどきアジアであることさえ忘れてしまいそうになる。タイはそんな国なのだ。しかも朝鮮戦争、ベトナム戦争とほとんど戦争特需がらみである。パッポンもベトナム戦争時の米兵の歓楽街として発展した。タイの歴史を紐解くと常にそのときどきの強い国になびいて発展を遂げてきた国という印象を受けるのだが、そのさいに残されたインフラを自分たちの世界にうまくとりこんでいく能力に長けた国なのかも。数多いホテルやインターネットやハイウェイなどはいわば米軍の置き土産だ。タイ国政府はこれらのインフラを活用して観光立国を標榜してきた。ベトナム戦争での対米協力は、わたしはヨシとしない立場であるが、米軍撤退のあとは日本資本主義の進出に場所をあけるなど、現在にいたるまで常に外国の文化に対して寛容で意図的に外資導入して経済発展を推奨する政策である。70年代の学生パワーが「日本製品不買運動」を展開したのも、世界の流れに呼応したものだだろうが、その当時、華僑社会の日本経済への反発があって学生に影響を与えたのではないかと鍼さんは見ている。これは Bangkok で暮らしているうちに自然にわかってくるが、この国のあらゆる支配層では華僑系が圧倒的に多い。

イベント&集会情報

あのバンダナ・シヴァの来日決定!

インドの伝統的な循環社会の視点から世界の反グローバル化運動を牽引するインドの生態学者バンダナ・シヴァ。チョムスキーやスーザン・ジョージとならぶ超大物が日本に!

「いらない! 遺伝子組換え食品」全国集会 — 食の企業独占は許さない

* 東京講演 3月25日(火) 午後1時~午後5時 東京ウィメンズプラザホール

* 京都講演 3月26日(水) 午後1時~ 会場未定

関西集会は京都に決まりました(おお!)。実行委員会はこれから結成されます。ATTAC 京都では、使い捨て時代を考える会やジュビリー関西、BeGood Cafe、京風土ネットなどのアクティブな人たちとともに、これを読んでいるみなさまも実行委員会に参加しませんか?

3月は、**世界水フォーラム**です!

世界的に環境の悪化が進み、各地でたくさんの人々が聞きに瀕しています。いっぽうで、これをビジネスチャンスと考えると、多国籍企業が世界の水を独占や、投機的売買の対象にしようとしています。世界水フォーラムには、いろんな利害やいろんな問題意識の元に、各国閣僚や多国籍企業の経営者、そしてそれに対抗する市民が集まります。ATTACも(多分、会場の外で)対抗アクション、オシャレなイベントを巻き起こしていく予定です。

*シヴァと水フォーラムについてはATTAC京都のウェブサイト(http://k_attac.tripod.com/)に掲載します。また事務局のほうにもお問い合わせください。

忘れてたっ 次回の例会は以下のとおりです。ご期待ください。

アジア社会フォーラム報告会 報告: 春日匠さん 2/22/18:30@キャンパスプラザ